

常総水害から

10年

水害の
記憶を
未来へ



Preserving
the memory of the
flood for the future

第一章

災害の記録

平成27年9月 関東・東北豪雨の記録 ————— 4

鬼怒川緊急対策プロジェクト ————— 6

第二章

常総水害から10年

第一節 式典

「常総水害から10年～水害の記憶を未来へ～」式典 ————— 8

行動宣言 ————— 10

第二節 シンポジウム

基調講演 ————— 12

パネルディスカッション ————— 13

第三節 未来へ繋ぐ10年企画

書道部メッセージムービー／書道パフォーマンス ————— 17

絵画コンクール表彰 ————— 19

人文字メッセージムービー ————— 23

第三章

防災イベント

防災イベント ————— 24

第四章

広報・制作物 ————— 26

平成27年9月 関東・東北豪雨の記録

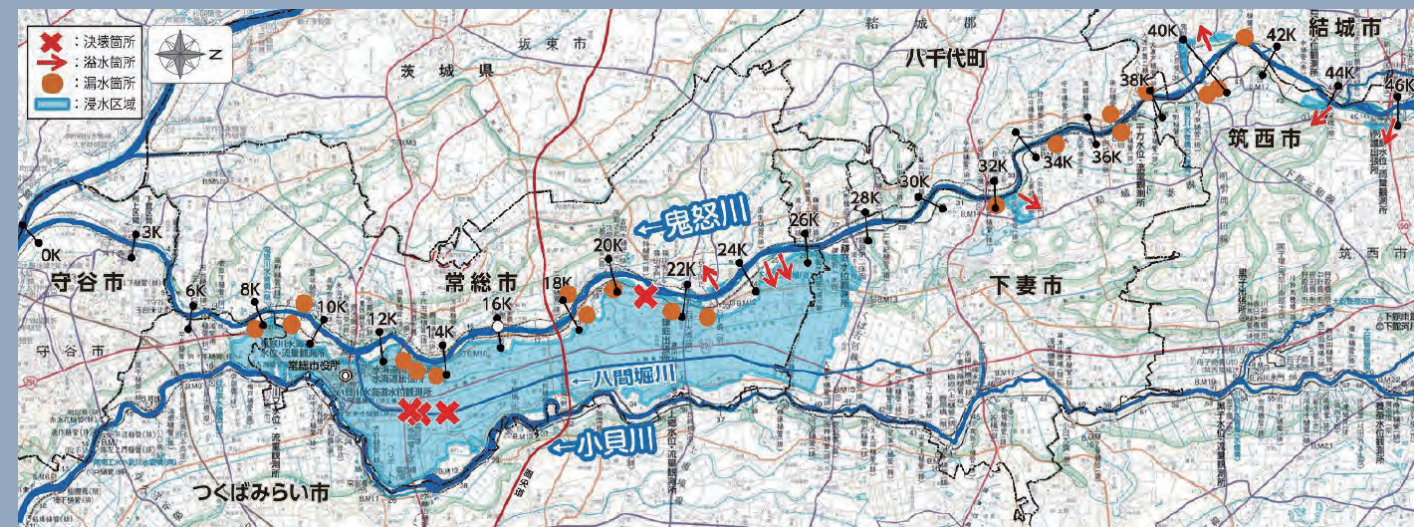
平成27(2015)年9月、台風第18号から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、関東地方では線状降水帯と呼ばれる積乱雲が带状に次々と発生。長時間にわたって強い雨が降り続き、常総市三坂町地先で堤防が決壊するなど、甚大な被害が発生しました。

常総市三坂町地先で堤防が決壊

〔7箇所の溢水・19箇所の漏水〕

観測史上最多(当時) 24時間雨量 551mmを記録(五十里雨量観測所)

被害:浸水 約40km² 救助された人 約4,300名



2015

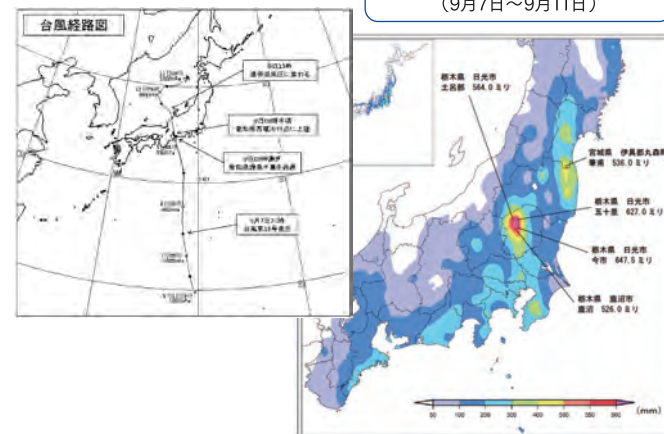
〔平成27年〕

9月7日～9日

台風や前線の影響で広い範囲で
記録的な大雨が発生

平成27年9月7日、沖ノ島島の東の海上で発生した台風第18号は、日本の南海上を北上し、9日9時30分頃に愛知県西尾市付近に上陸。その後日本海に進み、同日15時に温帯低気圧に変化。この台風や前線の影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨が発生し、統計期間が10年以上の観測地点のうち16地点で、最大24時間降水量が観測史上最多を更新しました。

■ 平成27年
台風第18号位置表



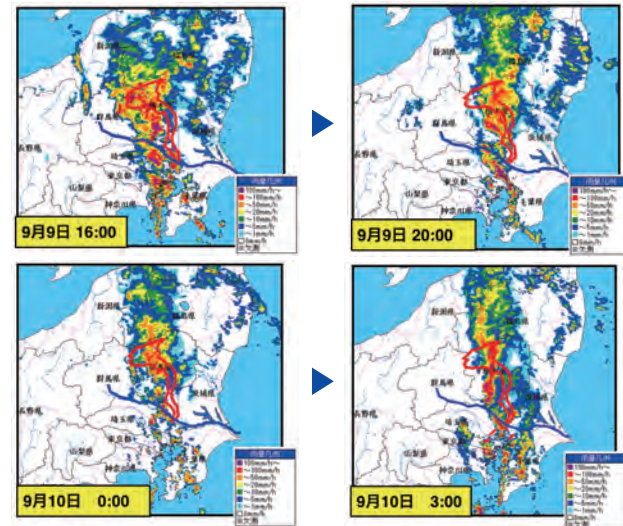
出典:気象庁ホームページ
「災害時気象報告 平成27年9月関東・東北豪雨及び平成27年台風第18号による大雨等」
(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/saigaiji/saigaiji_2015/saigaiji_201501.pdf)

9月9日～10日

多数の線状降水帯が次々と発生
流域各地で観測史上最多雨量を記録

関東地方では線状降水帯と呼ばれる積乱雲が带状に次々と発生する状況となり、長時間にわたって強い雨が降り続き、五十里雨量観測所(栃木県日光市)では、昭和50年の観測開始以来最多の24時間雨量551mmを記録するなど、各観測所で観測史上最多雨量を記録しました。

■ レーダ雨量図



9月10日

約200mにわたり堤防が決壊
常総市の約1/3が浸水

鬼怒川流域における記録的な大雨により、鬼怒川の水位は大きく上昇し、12時50分頃には常総市三坂町地先で約200mにわたり堤防が決壊しました。7箇所の溢水及び19箇所の漏水等も発生したことにより、常総市の約1/3の面積に相当する約40km²が浸水し、常総市役所も孤立しました。



9月11日～19日

決壊の当日から排水を開始
10日間で宅地及び公共施設等の浸水が解消

決壊の当日から排水を開始し、全国の地方整備局の応援により、約780万m³を排水し、10日間で宅地及び公共施設等の浸水が概ね解消されました。

排水ポンプ車による排水作業



応急復旧



堤防決壊の当日(9月10日)から応急復旧に着手。24時間体制で施工し、1週間(9月16日)で仮堤防(盛土)を完成、2週間(9月24日)で応急復旧を終了しました。

鬼怒川緊急対策プロジェクト

平成27年9月関東・東北豪雨で大きな被害を受けた、鬼怒川下流域の7つの市町(結城市、下妻市、常総市、守谷市、筑西市、つくばみらい市、八千代町)と国、茨城県が主体となり、全国初のハードとソフトが一体となった緊急的な治水対策をスタートさせました。



9月 関東・東北豪雨



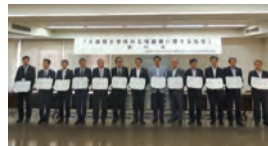
12月 鬼怒川緊急対策プロジェクト始動
水防災意識再構築ビジョン策定

2月 水防法の一部を改正する法律の施行

3月 小貝川洪水浸水想定区域図の公表
緊急速報メールを活用した洪水情報の
プッシュ型配信を鬼怒川・小貝川沿川の
19市町に拡大

6月 要配慮者利用施設の避難確保計画
及びこれに基づく避難訓練の実施が
義務化。
以後、各地の計画策定を支援

5月 鬼怒川・小貝川
流域13市町で
「大規模水害時の
広域避難に関する
協定書」締結



6月 マイ・タイムライン検討の取組が全建賞を受賞
7月 マイ・タイムラインポータルサイト開設
10月 令和元年東日本台風

2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年

2月 鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する
減災対策協議会が設立(茨城県)
6月 鬼怒川・小貝川上流域大規模氾濫に関する
減災対策協議会が設立(栃木県)
8月 鬼怒川洪水浸水想定区域図の公表
避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成
9月 9/3~10を「水防災意識強化週間」と定める
緊急速報メールを活用した
洪水情報のプッシュ型配信を開始(常総市)
小中学校一斉学校防災訓練の開始(常総市)
10月 みんなでタイムラインプロジェクト始動

3月 マイ・タイムライン
検討ツール
「逃げキッド」公表
以後全国へも普及



5月 緊急排水計画(案)作成
12月 マイ・タイムラインリーダー
認定制度策定

6月 既存ダムの洪水調節機能の
強化(事前放流の運用開始)
8月 鬼怒川・小貝川流域治水
協議会が設立
(栃木県、茨城県)



鬼怒川・小貝川大規模氾濫に関する減災対策協議会

「水防災意識社会」の再構築を目指し、鬼怒川では全国に先駆けて減災対策協議会が設置され、取組方針がとりまとめられました。

5年間で達成すべき目標

鬼怒川・小貝川の大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指す。

上記目標達成に向けた3本柱の取組

- 1 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組
- 2 洪水氾濫による被害の軽減、避難時間の確保のための水防活動の取組
- 3 一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動の取組



ハード対策 2021〔令和3年〕完了

ハード対策実施箇所



3月 鬼怒川流域治水プロジェクト策定
8月 WEB Hotline訓練の実施



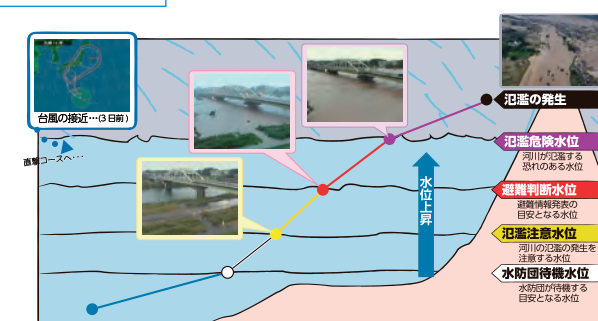
2月 洪水キックルと水害リスクラインの
統合表示が開始
3月 在留外国人向け・多言語版
「逃げキッド」完成
10月 在留外国人向け
マイ・タイムライン
講習会の試行
(八千代町)



水害から10年

2021年 2022年 2023年 2024年 2025年

6月 洪水予報の氾濫危険情報を
予測でも発表



3月 鬼怒川流域治水
プロジェクト2.0策定
10月 在留外国人向け避難体験型
マイ・タイムライン講習会
(常総市)



2月 在留外国人向け
避難体験型
マイ・タイムライン講習会
(宇都宮市)
5月 第73回利根川水系連合・
総合水防演習開催
(宇都宮市)
8月 栃木県・茨城県をつなぐ
サイクリングネットワーク
が拡大
9月 洪水時避難の
ジブント化を促進する
「避難行動促進ツール」の
開発

「常総水害から10年」式典

決壊時(三坂町地先)



現在(三坂町地先)



常総水害から10年

～水害の記憶を未来へ～

式典 *ceremony*



開催日：令和7年9月28日(日)

会場：常総市地域交流センター(豊田城)

水害から10年

平成27年9月、関東・東北豪雨により常総市三坂町地先で鬼怒川の堤防が決壊するなど、甚大な被害が発生してから10年を節目に、水害の記憶を風化させず、未来へ繋げるため、「常総水害から10年～水害の記憶を未来へ～」式典を開催いたしました。



式次第

開 式

1. 主催者挨拶

実行委員会委員長 常総市長	神達岳志
茨城県知事	大井川和彦
国土交通省関東地方整備局長	橋本雅道

2. 来賓挨拶

衆議院議員	永岡桂子
衆議院議員	葉梨康弘
衆議院議員	田所嘉徳
衆議院議員	中村はやと
参議院議員	上月良祐
参議院議員	加藤明良
参議院議員	堂込麻紀子
参議院議員	櫻井祥子

3. 来賓・主催者紹介

4. 電報披露

5. 常総水害から10年ムービー ～10年の歩み～

6. 未来へ繋ぐ「行動宣言」

7. 写真撮影

閉 式

実行委員長 からの挨拶



常総水害から10年実行委員会

実行委員長 常総市長

神達 岳志

本日は常総水害から10年の節目に、皆様とこの式典・シンポジウムを開催できることに心より感謝申し上げます。平成27年の水害以降、多くの皆様のご尽力により復旧・復興が進められ、特に防災の取り組みでは、今や全国にも広がるマイ・タイムラインの普及活動や情報発信の迅速化など、日々進化して参りました。

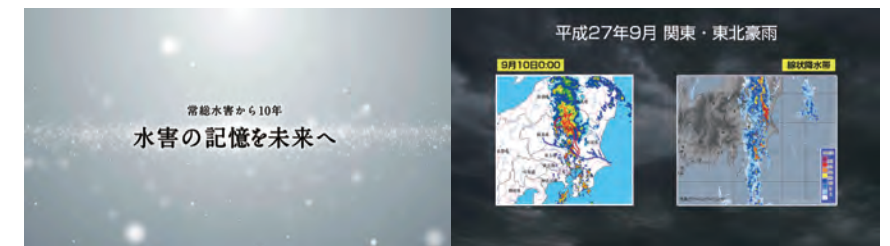
しかし、防災に終わりはありません。異常気象や突発的な豪雨などの新たな課題に備え、市・町・県・国が総力を挙げ、水害の記憶と教訓、防災の取り組みを次の時代へ繋げていく必要があります。本日はそのスタートとして、皆様と共に防災について考える貴重な機会にしましょう。

(注：挨拶内容を一部抜粋)

10年間の歩みを辿るオープニングムービー

式典では新たな一歩へ向け、水害から10年間の歩みをまとめたオープニングムービーを放映いたしました。

水害当日の記録から、鬼怒川緊急対策プロジェクト、そして茨城県、7市町、国、それぞれの立場で進めてきた水防災への取り組み等を辿りました。



未来へ繋ぐ「行動宣言」

式典内で、実行委員会メンバー(県・7市町・国土交通省下館河川事務所)による「行動宣言」を行いました。

実行委員長である常総市長が代表して、水害による記憶を風化させることなく後世に語り継ぎ、「水防災意識社会の再構築」及び「流域治水」の取り組みを浸透・推進していくための行動を宣言しました。



常総水害から10年 ～水害の記憶を未来へ～

行動宣言



常総水害から10年 ～水害の記憶を未来へ～

行動宣言

常総水害から10年を節目に、私たちは、常総水害による災害の記憶を風化させることなく後世に語り継ぎ、「水防災意識社会の再構築」及び「流域治水」の取組みを浸透・推進していくため、そして川の恵みを享受しながら、これからも安心して暮らしていける社会を築くために、次のとおり宣言します。

1. 大規模水害に対する「逃げ遅れゼロ」を目指し、防災教育を通じた人材育成を継続し、誰もが水災害リスクを「自分事」として捉え、自らの避難行動につながる取組みを推進していきます。
2. 災害から人命を守るためには自助・公助と共に、地域住民が協力して助け合う共助も重要であることから、地域コミュニティを維持・発展させ、より一層の地域防災力の向上に努めていきます。
3. 国・県・市町は、更なる連携強化のもとに防災体制や防災機能等の向上を図り、住民の命を守るための確かな避難情報発信や支援等に取組んでいきます。
4. 近年の激甚化・頻発化する水害に対して、行政や企業・住民等、流域全体のあらゆる関係者が協働して水害を軽減させる治水対策「流域治水」を推進していきます。
5. 自然環境の保全や地域を活かした魅力ある水辺空間の創出、賑わいあるまちづくりなど、鬼怒川の豊かな水と緑の空間を次世代へ残していきます。

2025年（令和7年）9月28日

常総水害から10年実行委員会

実行委員長 常 総 市 長 神達 岳志



実行委員 茨 城 県 知 事 大井川 和彦



実行委員 結 城 市 長 小林 栄



実行委員 下 妻 市 長 菊池 博



実行委員 守 谷 市 長 松丸 修久



実行委員 筑 西 市 長 設楽 詠美子



実行委員 つくばみらい市長 小田川 浩



実行委員 八 千 代 町 長 野村 勇



実行委員 下館河川事務所長 青木 孝夫



常総水害から10年 ～ 水害の記憶を未来へ～

常総水害から10年 ～水害の記憶を未来へ～
茨城県 結城市 下妻市 常総市 守谷市 筑西市 つくばみらい市 八千代町 国土交通省 下館河川事務所

第二節 シンポジウム symposium

第一部 / 基調講演

第二部 / パネルディスカッション

第一部 基調講演

茨城県常総市出身、芸人であり防災士でもある赤プル氏による“市民目線・主婦目線で考える防災”をテーマとした講演。

「平成27年9月関東・東北豪雨」での体験を機に防災士となった赤プル氏。災害が発生してから考えるのではなく、日常生活、今この瞬間からできる災害対策を知り、伝えたいという想いの元、専門家ではない市民目線の「地域防災」、そして主婦として知っておきたい「家庭での防災対策」についてお話いただきました。



講師

芸人・防災士
赤プル氏

「エンタの神様」、「爆笑レッドカーペット」など、テレビ、ラジオで活躍する女芸人。茨城県常総市出身で、「平成27年9月関東・東北豪雨」で甚大な被害に見舞われたことをきっかけに、2017年に防災士の認定を取得。現在は、全国各地で講演活動や防災イベントに出演し、事前の備え、市民目線での防災意識について自身の経験からお話。



第二部

パネルディスカッション

「平成27年9月関東・東北豪雨」により常総市三坂町地先で鬼怒川の堤防が決壊するなど、甚大な被害が発生してから10年。あの日を振り返り、今、そして未来へ向けて、激甚化・頻発化する水害にどう備えていくべきか？

様々な分野・立場で活躍する方々をパネリストに迎え、“水害の記憶を風化させない、未来へ繋いでいくために”、これからの水防災についてディスカッションを行いました。



Part 1 当時の振り返り

- ▶ 常総市三坂町地先での決壊から10年。当時の状況や対応を振り返り
- ▶ 経験からの学びや気づき

Part 2 この10年間の取り組み

- ▶ 被災から10年間の取り組みや変化
～成果・反省・課題～

Part 3 これから私たちができること

- ▶ 水害の記憶を未来へ
- ▶ 地域防災力を上げるために一人ひとりができること
～流域治水～



ファシリテーター

Facilitator

筑波大学准教授

白川 直樹 氏



Profile

東京大学工学系研究科社会基盤工学専攻修了。専門分野は河川工学。「川の流量」「台風や大雨が引き起こす自然災害」「川を活かした地域づくり」をテーマに川と人間の関係を良くしていくための研究に取り組む。「下館河川事務所リバーカウンセラー」「常総市水害対策検証委員会」等の委員を多数歴任。



気象予報士・防災士

菊池 真以 氏

茨城県龍ケ崎市出身。大学在学中に気象予報士を取得し、気象キャスター歴は15年以上。これまでの出演番組に「TBS NEWS」「NHKニュース7」「NHKおはよう関西」など。空フォトグラファーとしても活躍中。毎日のように空を撮影し、本や雑誌を出版。著書に「ときめく雲図鑑(山と溪谷社)」など。二児の母でもあり、ママ予報士として生活に寄り添った気象コーナーを目指している。



常総市防災士連絡協議会
会長

須賀 英雄 氏

茨城県常総市在住。常総水害を機に生まれたマイ・タイムラインの重要性を訴え、防災士及びマイ・タイムラインリーダーとして幅広く活動。根新田町内会での水防災活動が評価され、2019年「防災功労者内閣総理大臣表彰」や2020年「日本水大賞」グランプリ等を多数受賞。



常総市教育研究会
防災教育委員会委員長
(常総市立水海道中学校校長)

袖山 文広 氏

茨城県筑西市出身。常総市立鬼怒中学校校長、常総市教育委員会指導課長を経て2025年4月から現職。防災教育委員会委員長を務め、防災先進都市を目指す常総市と教育現場との橋渡し役として取り組む。常総市の水害当時は水海道中学校で社会科教諭として働いていた。



常総市長

神達 岳志 氏

茨城県常総市出身。上武大学経営情報学部卒。茨城セキスイハイム株式会社勤務や有限会社カンダツ代表取締役就任を経て、2010年3月から2016年6月まで茨城県議会議員として3期務める。2016年より茨城県常総市長に在任中。「さらなる防災先進都市化」を掲げ、内水氾濫対策等に取り組む。



国土交通省
下館河川事務所長

青木 孝夫 氏

1986年4月関東地方建設局入省。内閣官房副長官補(事態対処・危機管理担当)付参事官補佐、下館河川事務所副所長、関東地方整備局災害対策マネジメント室長、関東地方整備局防災室長を経て、2024年4月から現職。鬼怒川緊急対策プロジェクトにも携わり、水防災のエキスパートとして活躍している。

Part 3

これから私たちができること

菊池一 現在、様々な防災情報が5段階の警戒レベルに整理され、危険度を把握しやすくなりました。整理された情報を元に、一人ひとりがご自身のリスクや災害の危険度を判断し、早めに避難することを心がけていただき、私自身も気象予報士としてその重要性をしっかりと伝えていきたいと思います。

須賀一 やはり何と言っても自助が一番ですね。「防災は大切だ」という思いはどなたでも思っていますが、実際には何も行動していないと言うのが実情です。避難所に行く事一つとっても、各自が最低限の飲み物やパン・おにぎり等は準備して行く事が必要です。自助・共助・公助とはそれぞれの役割と活動段階があって、自助が確立されないと共助を育むという事は容易ではないですね。

袖山一 水害の記憶を風化させないこと、そしてますます災害に強い常総市の人材を育てることがこれからの防災教育でも重要です。10年目を迎え、市内の全小中学校で常総水害の記録動画を視聴しました。水海道中学校では「今度は私がボランティア活動に参加して、常総市の役に立ちたい」、「家に帰ったら家族と一緒に避難の確認をしよう」という生徒もいました。風化を防ぎ、災害を自分ごととして考え、備え協力できる人材、そして将来常総市の防災を中心となって担うような人材を育てられるよう、これからも工夫改善しながら防災教育に真摯に取り組んでいきたいと考えます。

青木一 今後は、あらゆる関係者が協働して水害対策を行う「流域治水」を強化していくことが必要であると思います。行政でハード面での対策はしっかり行っていくとともに、防ぎきれない洪水は起こり得るものと考え、避難訓練や防災教育など、一人ひとりが自分ごととして考え、いざ水害が起きてしまったら、行動にうつせるようにしておくことが非常に重要です。この10年を節目に、水害を風化させることなく、より一層、皆様と連携して頑張りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

神達一 行動宣言でもお伝えしたように、県・近隣市町村・流域全体で連携した“流域治水”の取り組みが一番重要です。其中で我々基礎自治体としては、災害対策本部をしっかりと機能させるために訓練を行うこと、そしてより簡単な方法で市民の皆様が防災情報を受け取れる仕組みを構築していくことが重要であると考えています。例えば今常総市では減災対策協議会のモデルケースとしてLINEによる防災情報発信という全国初の取り組みを始めています。また、行政としてハード面である内水氾濫への取り組みも尽力しているところです。

Part 2

この10年間の取り組み

神達一 逃げ遅れゼロという目標を掲げ、防災先進都市を目指し様々な取り組みを行ってきました。その中で、「地域のコミュニティ構築」や「地域間での情報連携」により“地域の防災力”を高めていくこと、そして情報を地域へ確実に届けていくことが重要であると感じております。10年前、防災情報を発信しても一部で情報を受けられなかったという事例がありました。その教訓から防災教育の取り組みとともに、あらゆる人に情報を届けるための伝達の仕組みづくりに尽力しました。地域の自主防災組織、また防災支援連絡協議会の皆さんにもご協力いただき、消防団の皆さんも含め、一緒に防災対策に取り組んできた10年間でした。

袖山一 教育の現場の10年間をお話ししますと、まず水害の翌年には市内の小中学校で一斉に防災訓練と防災学習を行いました。それは現在も続いており、各校の取り組みの共有や行政との連携強化、多様な防災学習など、様々な取り組みが行われています。例えば、防災スポーツやカードゲームによる避難所体験など、学校同士、そして教育と行政が一体となって、この10年間で多様で効果的な防災学習を展開し、児童生徒の防災意識を高め、教職員の防災教育力を培っていることは、常総市の誇れるところではないかと思っています。

須賀一 「災害の時には地域コミュニティで助け合える」という意識、安心感は住民の中でも高まったと思います。さらに住民の防災意識の向上と併せてハード面での整備も行ってきました、地区内を流れる千代田堀川を監視する防災カメラを取り付けたり、ドローンを導入したり、公民館に非常電源装置を設置したり、住民に負担をかけない防災活動も充実させてきました。行政に頼らず、地域で出来る事は地域で行っていく事が大切ですね。

Part 1

当時の振り返り

菊池一 常総水害では、列島を挟んで発生した台風と元台風により湿った空気が流れ込み、線状降水帯が発生していました。当時「線状降水帯」という言葉はあまり浸透しておらず、「線状降水帯が発生する」ということをどのようにして皆さんに伝えるべきだったか、もっとうまく伝えられたのではないかと今振り返り反省しております。

須賀一 当時私は根新田の事務局に所属していました。決壊当日は自宅の2階に避難しており、町内会で構築していたSMS一斉送信システムを使って浸水状況や水位状況、通れる道などを地区の人たちに送信しておりました。さらに洪水が落ち着いた後は支援物資の入荷連絡やボランティアに関するお知らせなどを送信しました。この一斉送信システムは町民一人ひとりに情報を提供でき、被災の混乱の中で非常に高い効果を発揮したと思います。

袖山一 当時私は水海道中学校の教諭でした。9月10日は洪水に備え休校、職員のみ出勤し浸水に備えておりました。被災後、校舎内では階段の1段目くらいまで泥水が入り込んでおり、水道も止まっていたため、職員が家から持ってきた水で掃除をしたり等、対応しておりました。そんな中、他校の学生が自転車を手伝いに来てくれたことは、本当に感動しました。このような状況から1週間で学校が再開できたのは、たくさんの方々の支援があったからこそです。

神達一 当時私は県議会議員だったため水戸におり、9日の鬼怒川温泉の建物倒壊報道を受け、水害の危険を感じ地元議員の方々と連絡を取り合っておりました。翌朝、常総市の状況悪化を受けて県の幹部職員と共に状況整理をし、常総市に帰る途中で上三坂が決壊したというニュースが届きました。すぐに現場に駆けつけ、県議会議員として対策本部での情報収集及び伝達に尽力しておりました。

青木一 当時私はTEC-FORCEとして鬼怒川の堤防点検をしておりました。上流で過去最大の24時間雨量500mmを超え、決壊の他に各所で越水・漏水が発生し、パトロールをしながら鬼怒川全域で極めて深刻な事態が発生しているという印象を受けました。決壊箇所の復旧は24時間体制で行われ、国交省・建設業者が一丸となって対応、2週間で復旧することができました。その後「鬼怒川緊急対策プロジェクト」がスタートし、ハード対策は短期間集中型で整備を進め令和3年9月に完了。この洪水を契機に「水防災意識社会再構築ビジョン」が策定され、マイ・タイムラインなど、全国へ先駆けて新たな取り組みが始まったことが大きなポイントだと思います。

未来へ 繋ぐ 10年企画

常総水害から10年となることを節目に、
「未来へ繋ぐ10年企画」を行いました。
小学校・中学校・高校、消防団の皆さんを中心に、
多くの流域住民の方々にご協力いただき、
未来の水防災へ向けた想いを繋ぎました。

1

高校生書道部
メッセージムービー
上映
書道パフォーマンス

水海道第二高等学校書道部



2

絵画コンクール表彰



3

人文字メッセージムービー
上映



高校生書道部メッセージムービー 上映

地元高校生書道部による
リレーメッセージ企画

未来の水防災へ向けたメッセージを地元の高校生書道部が、書道や書道パフォーマンスで繋ぎました。その様子を記録した映像作品を上映しました。



書道で繋いだ未来へのメッセージ

〔つくばみらい市〕伊奈高等学校



〔常総市〕水海道第一高等学校



〔守谷市〕守谷高等学校



水害の記憶 / あの日の想い胸に / 明日へと繋ぐ
さあ進もう / 一人ひとりが / 考え行動する / 未来の水防災へ



〔下妻市〕下妻第二高等学校



〔筑西市〕下館第二高等学校



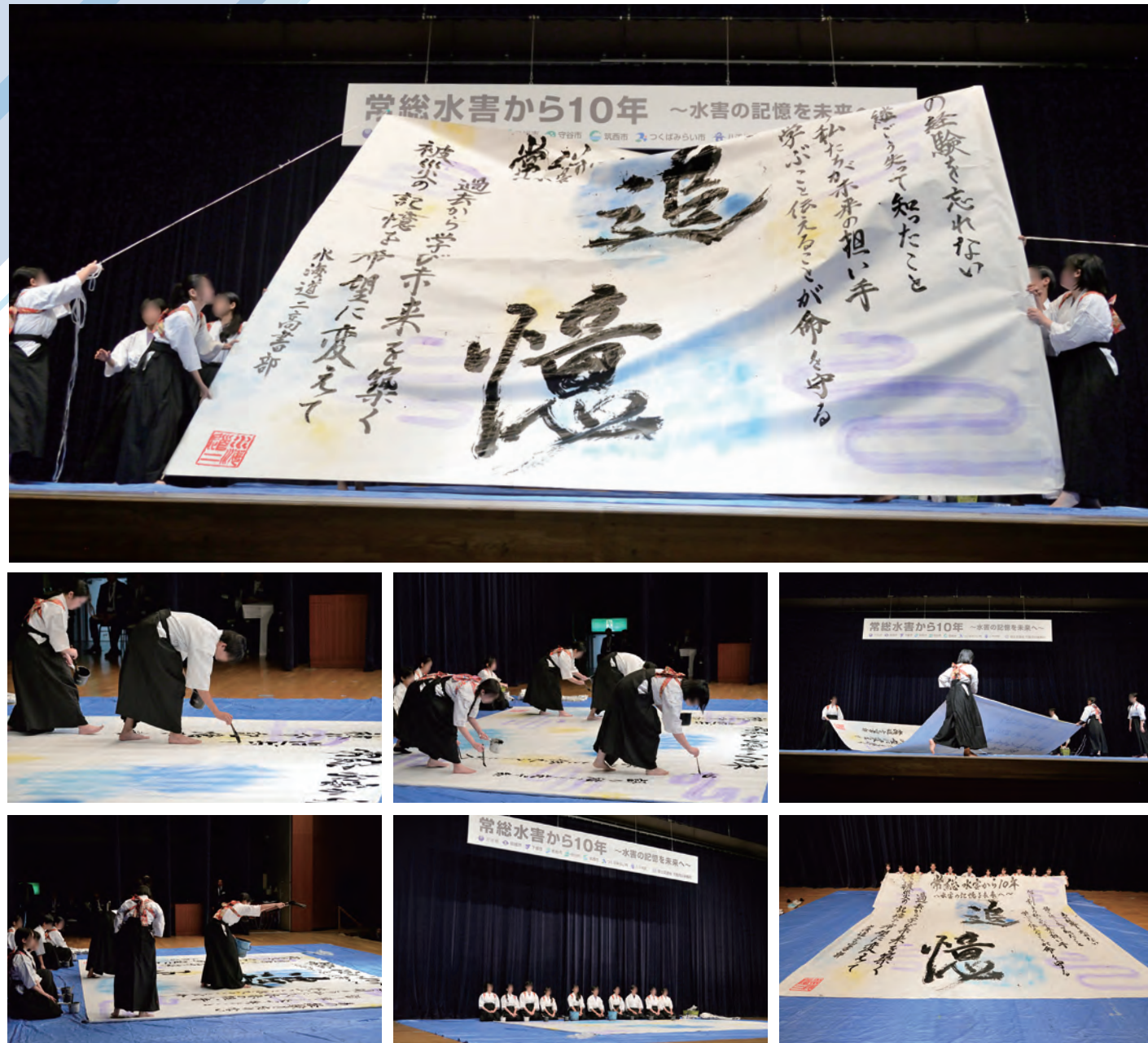
〔八千代町〕八千代高等学校



〔常総市〕水海道第二高等学校

書道部 当日パフォーマンス

「高校生書道部メッセージムービー」の上映に合わせ、各高校を代表し、水海道第二高等学校書道部の皆さんに、会場にて書道パフォーマンスを実施いただきました。



水海道第二高等学校

茨城県高等学校総合文化祭等、多数のコンクールに出品、上位入賞し、2025年には5年連続で全国高等学校総合文化祭にも出場している。また、常総市主催の菑咲祭や水海道第二高等学校の文化祭である御城祭、道の駅常総や一言主神社のイベント等で書道パフォーマンスを披露している。



絵画コンクール表彰



未来のきぬがわを描こう！

未来のきぬがわ絵画コンクール

常総水害から10年の節目に、水害の記憶や教訓を忘れず、未来へ繋いでいくため「未来のきぬがわ絵画コンクール」を開催。

結城市、下妻市、常総市、守谷市、筑西市、つくばみらい市、八千代町の小学生・中学生を対象に「未来のきぬがわ」をテーマとする絵画作品を募集しました。

災害から10年、新しい堤防が完成し災害に強くなった鬼怒川。これからも安全で自然豊かな鬼怒川を未来へ繋いでいくため、思い思いの「未来の鬼怒川」の姿を描いていただきました。

応募作品総数
1,188作品

- 最優秀賞 6作品
- 優秀賞 17作品
- 佳作 26作品
- 審査員特別賞 4作品



最優秀賞



【小学1・2年生の部】



かがやく川

【小学3年生の部】



にじのはし

【小学4年生の部】



みんながいつまでも幸せになれる
きれいなきぬ川

【小学5年生の部】



美しい鬼怒川をつなぐバトン

【小学6年生の部】



きぬ川と育てる未来

【中学生の部】



希望と共に流れる私たち



審査員特別賞



しましまガニザス



きれいなきぬがわで見る花火



未来の鬼怒川



きぬ川のとなりにおみせとこうえん



優秀賞



小学1・2年生の部



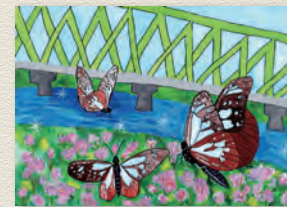
小学3年生の部



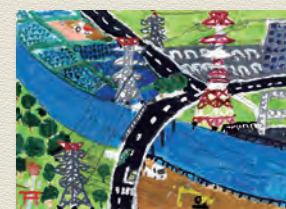
小学4年生の部



小学5年生の部



小学6年生の部



中学生の部



講評

今回、「未来のきぬがわ絵画コンクール」の審査という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。形や色がない水で形成され、表情が日々変化する川をモチーフとした「未来の鬼怒川」という非常に難しいテーマに対して子どもたちがどのような作品を描いたのか、大変楽しみにしておりました。

子どもたちの自由な発想による色使いの作品、構図やモチーフなどに工夫が見られる作品、そして感性の赴くままに自由に描かれた作品など、我々審査員にも大きな驚きと刺激を与えてくださいました。

応募総数1,188点もの作品すべてには、川やそこに住む生き物、そして周辺に住む人々の暮らしが生き生きと描かれていました。子どもたちの思いが、未来の鬼怒川をより素晴らしいものに育んでいくことを、期待しております。

(注：講評内容を一部抜粋)

審査員長 筑波大学芸術系

田島 直樹 教授

筑波大学芸術専門学群、大学院芸術学学位プログラムで版画の授業を担当。主な研究内容は「銅版画の制作研究」。



審査の様子



【審査員】
筑波大学芸術系教授
田島直樹氏
同助教
星美加氏
諏訪智美氏
湯澤美麻氏

佳作



小学1・2年生の部



小学3年生の部



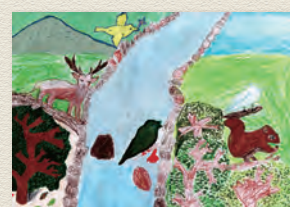
小学4年生の部



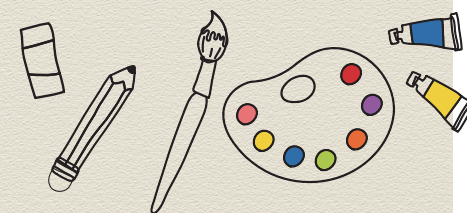
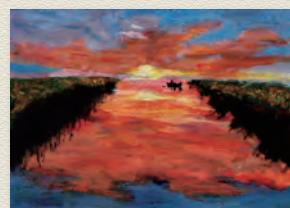
小学5年生の部



小学6年生の部



中学生の部



人文字メッセージムービー 上映

地域の想いを「文字」に リレー人文字メッセージ

結城市、下妻市、常総市、守谷市、筑西市、つくばみらい市、八千代町の小学校・中学校・消防団の皆さんを中心に、人文字でメッセージを作成。個性あふれる人文字で、未来への願いを繋ぎました。その様子を記録した映像作品を上映しました。



人文字で繋いだ未来へのメッセージ

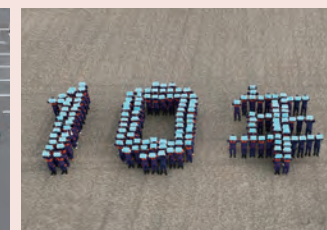
〔常総市〕水海道中学校



〔結城市〕消防団



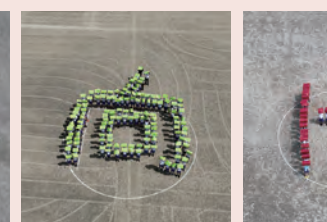
〔下妻市〕消防団



〔守谷市〕郷州小学校



常総 / 水害から / 10年 / きおくを
つなぐ / 未来へ / 向けて



〔筑西市〕関城西小学校

〔つくばみらい市〕小絹中学校

〔八千代町〕東中学校

〔八千代町〕西豊田小学校

〔八千代町〕川西小学校

防災イベント

Event

「常総水害から10年式典・シンポジウム」

同会場（常総市地域交流センター 豊田城）駐車場にて、防災イベントを実施しました。

自治体及び警察・消防・気象台・国交省等の展示ブースや“はたらく車”が集まり、地域の方々を中心に多くの方にご参加いただきました。



式典・シンポジウム会場



① 茨城県警

身近な防災術や関東・東北豪雨時の活動状況パネル展示

★体験車両

① バトカー1台

② 国土交通省 下館河川事務所

工作やめりえ、水害リスクを学べる体験コーナーも！

★体験車両

② ③ 降雨体験車
自然災害体験車

③ 水戸地方気象台

気象測器やペットボトルを使った実験機器等を展示

④ 国土交通省下館河川事務所

キッズ防災服・ヘルメット・帽子を着用して写真撮影を行おう！

⑤ 常総市（秘書課）

オリジナルヒーロー大集合！
パネル展示や常総市魅力ゲームを実施
※景品あり

⑥ 常総市（農業政策課）

“田んぼダム”の魅力発見！展示

⑦ 常総市（商工観光課）

常総市の魅力発信！
記念うまい棒プレゼント

⑧ 結城市

備蓄食料のサンプルや関東・東北豪雨時の市内被害状況のパネル展示

⑨ 下妻市

避難所用備蓄品の段ボールでらくがきしちゃう部屋！

車両展示・体験エリア

展示ブースエリア

休憩スペース

キッチンカーエリア

案内所

⑬ 筑西市

観光ガイドブックの配布や備蓄食料のサンプル、防災グッズを展示！

⑭ 八千代町

消防や防災に関するパネルを展示！

⑮ 常総地方広域市町村圏 事務組合消防本部消防展示ブース

★消防車両展示

⑦ 常総搬送車（水害に関する資器材を積載する車両）

⑯ 茨城西南広域消防本部 消防展示ブース

★消防車両展示

⑤ 石下分署タンク車

⑥ 救助工作車

⑧ く体験乗車）下妻消防署 屈折はしご車

展示ブースエリア



車両展示・体験エリア



キッチンカーエリア

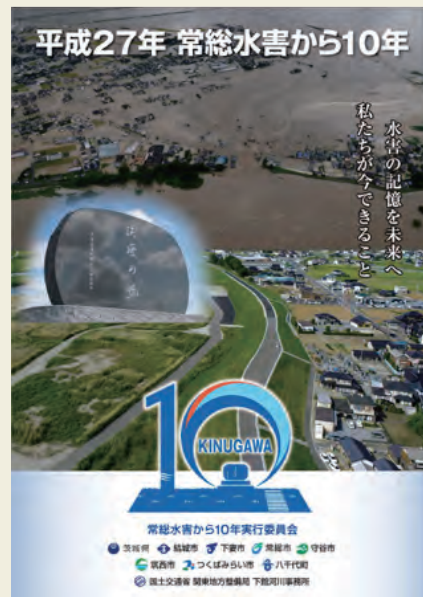


合計8台のキッチンカーにも出店いただきました！

スペシャルイベント

茨城県防災航空隊が会場付近上空で旋回とサイレン吹鳴を実施しました！





ポスター(2種)

絵画コンクール
クリアファイル



当日プログラム

令和7年9月28日付
茨城新聞・下野新聞 掲載



常総水害から10年 実行委員会

2024(令和6)年	10月31日	第1回準備会
	12月20日	第2回準備会
2025(令和7)年	2月17日	第3回準備会
	3月28日	実行委員会 立ち上げ 常総市長 神達 岳志氏 実行委員長に就任
	7月24日	第4回準備会
	9月17日	第5回準備会
	9月28日	「常総水害から10年～水害の記憶を未来へ～」 式典・シンポジウム開催

発行年月 2026(令和8)年1月
発行 常総水害から10年実行委員会
お問合せ 国土交通省関東地方整備局下館河川事務所
流域治水課
〒308-0841 茨城県筑西市二木成1753
電話:0296-25-2171

下館河川事務所PRキャラクター





常総水害から10年
実行委員会

